

ごあいさつ

皆さまには日ごろより東京スター銀行をご愛顧いただき、誠にありがとうございます。役職員一同厚く御礼申し上げます。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、世界中の経済活動が大きく落ち込み、当行においても、新規の海外融資案件や有価証券運用などについて慎重な運用を実施しました。法人のお客さまにおかれまして、インバウンド関連業種を中心に新規投資の中止や延期により資金ニーズが低下したことから、新規融資が伸び悩みました。

こうした中、当行の2021年3月期連結決算は、第1、第2四半期に加え、第3四半期においても、保守的にリスクに応じた引当金を計上したことを主因に、経常利益ベースでは前期比106億円減少し、7億円の損失、純利益ベースでは前期比113億円減少し、23億円の損失となりました。

また、貸出金残高は1兆5,742億円（前期末比4.1%減）、預金残高（譲渡性預金を含む）は2兆646億円（前期末比0.6%増）となりました。銀行の健全性を示す代表的な指標である自己資本比率は11.27%と、海外営業拠点を有しない銀行（国内基準行）として求められる4%を大きく上回り、極めて健全な水準を維持しており、事業環境の悪化に十分耐えられる財務基盤を備えております。

経済の先行き不透明感は継続しておりますが、当行では長期化するコロナ禍を見据え、リスク管理の高度化を進めるとともに、法人のお客さま向けには、これまで培ってきた事業承継やM&Aビジネスでの知見を活かし、店舗チャネルを通じて法人オーナーさま向けにサービスを提供するなど、新たなビジネスモデルの構築に取り組んでおります。

一方、個人のお客さま向けには、2019年8月に銀行業界で先行して開始したオンライン相談にて、保険相談などのサービス拡充やハード面の機能向上により、店頭と遜色ないサービス提供が可能となりました。また、現役世代のお客さまを中心とした急速なニーズの高まりを受け、2021年4月からはオンライン相談の専門スタッフを増員して体制を強化するとともに、店舗やインターネットバンキングとの連携を深め、多様化するお客さまのニーズにあわせた利便性の高い銀行サービスの提供を推進しております。

前述の取り組みに加えて、異業種参入や地方銀行の再編など近年厳しさを増す銀行業界において、当行が真にお客さまのお役に立ち、お客さまから選ばれ続け、さらに発展を遂げるための行動指針として、2021年4月に経営理念（ミッション、ビジョン、バリュー）を刷新しました。銀行にとって重要な要素である「安心」と「信頼」を基本に、当行の強みである「ユニークさ」を取り入れた経営理念としております。今後ますます従業員一人ひとりが金融のプロフェッショナルとしてお客さまに寄り添い、高品質かつユニークなサービスを提供し、お客さまの課題解決に努めてまいります。

当行が提供するユニークな商品やサービスを生み出す源泉には、多様な人材、人材の専門性の高さがあります。今後は、従業員向けに研修や教育の機会を一層充実させることで、当行の特色である専門性の高い人材の質をさらに高め、お客さまへ付加価値の高いソリューションを提供すべく努めてまいります。

本年6月、当行は創業20周年を迎えることができました。これまで当行を支えてくださったすべての皆さまにあらためて感謝申し上げます。引き続き、全従業員一丸となって、ユニークな金融サービスでお客さまに信頼される銀行を目指してまいります。当行のさらなる成長にご期待いただきますとともに、変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

2021年7月



代表執行役頭取CEO

多田正己